

診療科 乳腺外科

分類 MBC (Hなし) 進行再発乳癌

1 / 1

レジメンNo. 09-SB019

休薬期間 6日

最大回数 999回

レジメン名称 PTX (weekly) 療法

RpNo	薬剤名/手技/コメント	1回投与量	速度指示	day (1)	day (2)	day (3)	day (4)	day (5)	day (6)	day (7)
01	持続末梢静脈 維持ルートから 生理食塩液 PL (フソー) 100ml ルートキープ	100ml	1瓶	00:00						
02	点滴静注 抜き刺しで 5分かけて ポララミン (5mg) 生理食塩液 PL (フソー) 50ml	50ml	2A 1瓶	00:00						
03	点滴静注 抜き刺しで 100ml/h/30分かけて デキサート注射液「6.6mg-2mL」[デ'カト'ロン] ガスター注射液「20mg-2mL」 生理食塩液 PL (フソー) 50ml		1瓶 1A 1瓶	00:00						
04	持続末梢静脈 維持ルートから 100ml/h/30分かけて 生理食塩液 PL (フソー) 50ml	50ml	1瓶	00:00						
05	持続末梢静脈 維持ルートから 250ml/h/60分かけて パクリタキセル注「100mg-16.7mL」[タキソール] 5% ブドウ糖液 250ml 70~80mg/m ² 、インラインフィルターを使用。		80mg /m ² 1袋	00:00						
06	持続末梢静脈 維持ルートから 生理食塩液 PL (フソー) 50ml フラッシュ	50ml	1瓶	00:00						
終了										

レジメンコメント(医師専用)

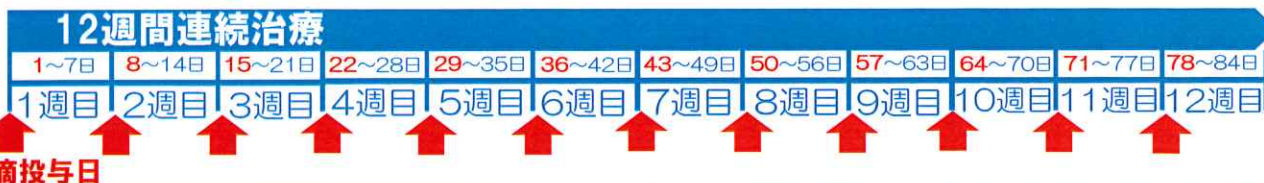
パクリタキセル療法について

パクリタキセル療法とは、「タキサン」と呼ばれるグループに分類されるパクリタキセルという抗がん薬による治療です。この薬は、添加剤としてアルコールを含んでいるので、少量の飲酒で顔や全身が赤くなる方、アルコールに対して過敏な方は医師にお伝えください。

また、アルコールやアレルギー予防の薬の作用により、眠気が促されることがあります。交通事故を起こす危険性があるため、治療当日に自動車などを運転することは避けてください。標準的には週に1回、点滴の治療を行います。副作用や血液検査の結果によっては、治療の間隔が長くなることがあります。

《標準的な治療スケジュール》 12週連続治療する方法、または、3週間連続で治療し、その後1週間お休みする方法のどちらかになります。

12週間
連続治療



3週間連続治療
1週間お休み



《1日の治療の流れ》

薬の名称（成分）	薬の作用（注意事項）	時間
①注射薬 生理食塩液	点滴で薬を入れる血管を確保する	
②注射薬 ポラミン （クロルフェニラミン）	アレルギー予防	約5分
③注射薬 デキサート（デキサメタゾン） ガスター（ファモチジン）	アレルギー予防	約30分
④注射薬 生理食塩液		約30分
⑤注射薬 パクリタキセル	がん細胞の増殖を抑える 点滴中に、息苦しい、からだがかゆい、 顔がほてるなど、気分がわるくなった場合は すぐにお申し出ください。	約60分
⑥注射薬 生理食塩液	点滴管の中の薬を全て体の中に入れる	約5分

《副作用が出始める時期》 ※これらの副作用が全て出るということではありません。

アレルギー反応

点滴部位の痛み、
吐き気（悪心）・嘔吐、食欲不振

遅延性の吐き気（悪心）・嘔吐、感染症、
間質性肺炎、筋肉・関節の痛み、手足のしびれ
脱毛、口内炎、下痢・便秘、全身のだるさ

手足のしびれ
など

治療中、当日～数日

数日～数週間

数週間～数か月

《主な副作用》

脱毛

治療を開始してから2～3週間後に髪の毛が抜け始めます。

治療が終了してから2～3か月後に再び生え始め、半年くらいで回復してきます。

□対策1：体調のいいときに、かつらや帽子を準備しておきましょう。

□対策2：シャンプーは刺激の少ないものを使いましょう。

手足のしびれ

治療を続けていると、手の指先の感覚がなくなって物を触った感じがしない、足先の感覚がなくなって歩きにくい、というようなしびれの症状があらわれることがあります。また、症状が強くなると、刺すような痛みとして感じることもあります。薬を飲むことで症状をやわらげることができますので、がまんせずに医師に相談しましょう。しびれの症状は、回復するまでに時間がかかります。

□対策1：熱いものや冷たいものに触れても感じにくくなるため、けがややけどに注意しましょう。

□対策2：重たいものはなるべく持たないようにしましょう。

□対策3：ボタンをかけにくい、物を落としやすい、歩きにくいなど、日常生活で困っている場合は早めに医師に相談しましょう。

関節や筋肉の痛み

点滴が終わってから2～3日後に、肩や背中、腕や足の関節や筋肉が痛くなることがあります。

ほとんどは数日以内でおさまってきます。

□対策1：ゆっくり入浴して温まる、マッサージをするなど、血液の流れをよくしましょう。

□対策2：痛みでつらい場合は痛み止めの薬を飲むことができます。医師に相談しましょう。

吐き気（悪心）・嘔吐

軽い吐き気（悪心）や嘔吐の症状があらわれることがあります。

治療当日に多い症状ですが、翌日以降にみられることもあります。

症状が強い場合は、次回に吐き気止めの薬を使用することができますので、医師に相談しましょう。

□対策1：なるべく水分をとるようにしましょう。

□対策2：食事は消化の良いものを少量ずつ数回にわけて食べるようにしましょう。

温かい食べ物は冷やしてから食べるようにしましょう。

□対策3：予め医師から処方された吐き気止めがある場合は、指示どおりにきちんと飲みましょう。

感染症

血液の成分のひとつに、白血球があります。白血球は身体を細菌から守る役割をしています。

しかし、治療によって白血球の減少がおこるため、細菌やウイルスに対する抵抗力が弱くなり、感染症にかかりやすくなります。

白血球は治療後1～2週間で最も低くなりますが、その後、少しずつ回復していきます。

もし、**37.5度以上の熱が出た場合は薬を飲むなどの対応が必要です。病院に連絡してください。**

まずは日常生活で感染を予防することが大切です

□対策1：手洗いうがいをごまめに行いましょう。

□対策2：人ごみに出るときにはマスクをしましょう。

